

令和7年 介護テクノロジーメーカー連絡会議

介護テクノロジーを活用した介護現場の生産性の向上について

小規模施設におけるICT導入の取り組みとその効果

～ QOL向上支援と働きやすい職場環境の構築 ～

2025年6月18日(水)13:40～14:00

一般社団法人ケア・クリエイト 代表理事
グループホーム野の花 管理者
土肥 琴美



法人の沿革



設立	平成27年12月
企業理念	未来の幸せを創造する
所在地	石川県白山市今平町111番地1（令和7年5月に移転）
従業員数	18名
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ○教育・学習支援業 <ul style="list-style-type: none"> 介護職員初任者研修事業 介護福祉士実務者研修事業 など ○介護福祉事業 <ul style="list-style-type: none"> 認知症対応型共同生活介護 グループホーム野の花 【令和3年9月24日～】 地域密着型介護老人福祉施設 地域密着型特別養護老人ホーム野の花 【令和8年3月 開設予定】

グループホーム野の花について



- ▶ 利用定員 18名（9名×2ユニット）
- ▶ 入居対象者 認知症の方で白山市内にお住いの
要支援2～要介護5の方
- ▶ 平均介護度 要介護3
- ▶ 事業所の方針 「その人らしい生活を、その人らしく送ります。
あたりまえの日常を、あたりまえに送ります。」

普通の暮らしがやっぱり幸せ…
そんな毎日がここにあります。」

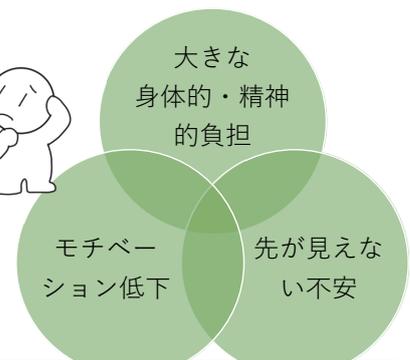
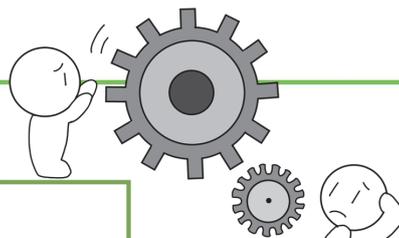
GH野の花の課題



令和3（2021）年9月 開設

◎開設時の課題

- ・過疎地域＝少子高齢化の進行、高齢者が多い地域
- ・若者は金沢・野々市など都市部へ就労
- ・無名な法人



◎その時の現状

- ・慢性的な人材不足（特に若手・夜勤）
- ・求人かけても人が来ないし、来てても定着しない

管理者が
介護現場に
どっぷり…

◎施設の状況

- ・マネジメントできない
- ・職員育成ができない
- ・職員が定着しない
- ・職員の残業の増加
- ・ケアの質の低下
- ・業務効率の悪化
- ・介護事故増加

ピンチ

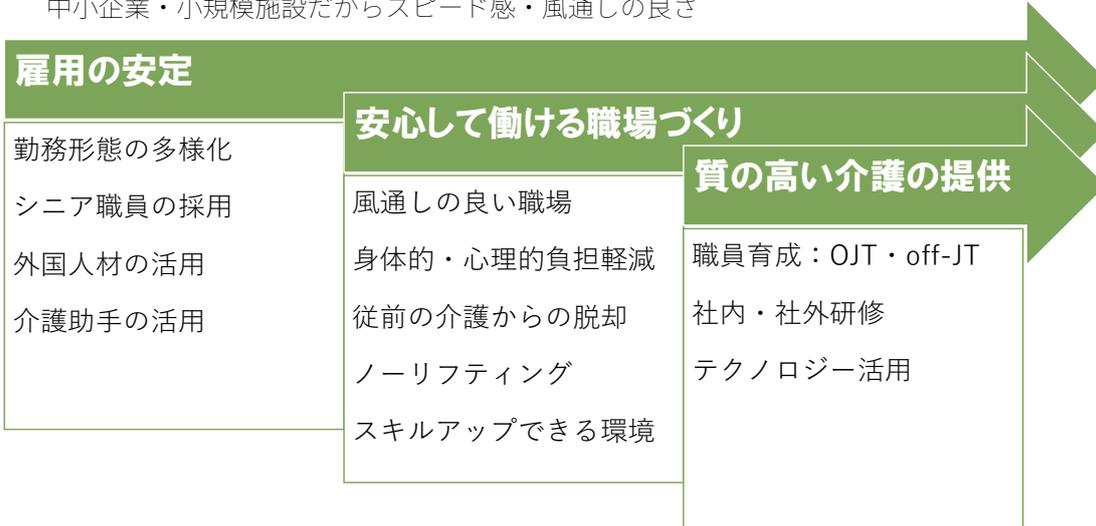


チャンス

働きやすい職場づくりのために

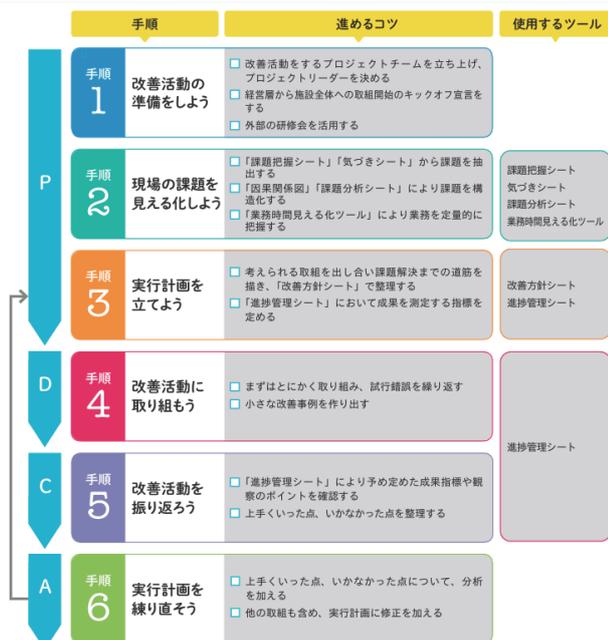


- 自法人の強みを活かし、働きやすい職場づくりを！
強み：介護教育、OJT指導、Web学習システム、テクノロジー機器に対する強い関心
職員の良さ（ITの得意な事務兼介護職員、現状を理解し頑張ってくれている多くの職員）
中小企業・小規模施設だからスピード感・風通しの良さ

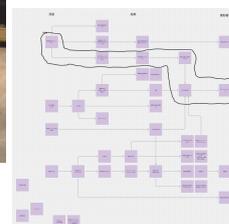


5

業務改善活動の取り組み



介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン



6

導入背景と活用促進の取り組み

	職員の状況	導入内容	職員の研修受講状況
R 3. 9月	OPENからバタバタ… 夜間の転倒事故が多発、センサーマットでは追いつかない!	眠りスキャン4台/介護記録システム SCOP/顔認証勤怠管理システム	
R 4. 6月	日中と夜間のメリハリのある生活の提供、職員から全床導入を求める声→眠りスキャン導入→職員の精神的な負担軽減→職員のこころのゆとり→徐々にポジティブ思考→全体会議やOJTを通して、徐々に事故防止より生活状況の把握へと視点に変換→主治医との連携時にもデータ活用	眠りスキャン 全床	
R 5.11月	認知症・自尊心・プライバシー保護により排泄状況の把握が困難→イレウスなど不安、でも自尊心の保持、精神的なケア・自由など認知症ケアをしっかりとしたい	トイレDIARY	
R 5.12月	R5.9月に男性利用者が看取りで退院→「便所したい!」→“やった”→徐々に負担→利用者・職員双方の望むケアの実践のためにどうすれば・・・	移乗支援ロボットHug	デジタル・テクノロジー基本研修
R 6. 2月	『お話しできる人形がほしい』とご利用者様が言っている、なんとかしてあげられないかと職員より相談。	音声認識人形『けんちゃん』	
R 6. 3月	オムツ外し・破りが顕著なご利用者の受入れ打診→“ここで受け入れて安心して過ごしてほしい、でも不安”→職員の不安軽減のためにどうすれば・・・	排泄センサー「Helppad 2」	
R 6. 4月	情報共有が不十分という課題 + 1月の能登半島地震により迅速な発災時の連絡手段が必要 →この両課題解決のために	LINE Works	
R 6. 8月	徐々に職員が様々な機器を活用することで、より良いケアを実践につながっていることを実感し、誇りを感じる		フォローアップセミナー (NTTデータ経営研究所)
R 6.10月	個々の職員が利用者及び施設の課題解決に対して積極的に考えるように。 8月に退院後、ADL・精神状態悪化の利用者のケアに行き詰まる		デジタル中核人材養成研修
R 6.11月	転倒リスクを気にし、訪室が頻回になることで、安眠の妨げになっているのではないか・・・居室中での生活状況を把握し、適宜、適切なケアを行えないか・・・		介護助手導入に向けた普及啓発 &実践セミナー (TRAPE)
R 6.12月	年々、徐々に利用者の状態が重度化。入浴日によっては時間内に終わらない日も発生し、休憩が少なくなる日が発生。安全・安楽な入浴支援のためにまた休憩時間の確保のためにどうすれば・・・	眠りスキャンeye	
R 7. 3月		KINUAMI	

介護テクノロジー機器の導入経過

	導入内容	
1	R 3. 9月 眠りスキャン 4台 介護記録システムSCOP 顔認証勤怠管理システム	
2	R 4.6月 眠りスキャン 全床	
3	R 5.11月 トイレDIARY (旧NECサニタリー利用記録システム) 全室	
4	R 5.12月 移乗支援ロボットHug 1台	
5	R 6.3月 排泄センサー「Helppad 2」 1台	
6	R 6.4月 LINE Works	
7	R 6.12月 眠りスキャンeye 2台	
8	R 7.3月 KINUAMI 1台導入	
9	R 7.4月 BONX (インカム)	
10	R 7.5月 タイムスタディ ときKANRI	

歩行練習→眠りスキャンeye導入の実行

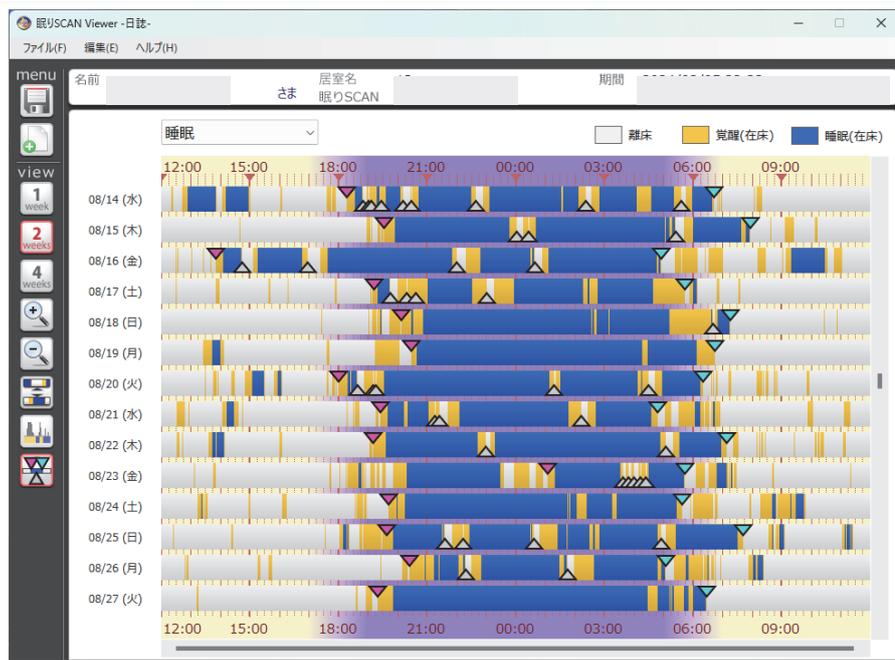


9

入居時～入院前



ADL：自立
 入眠：19～21時
 起床：4～8時
 中途：主に排泄の為
 0～4回離床



10

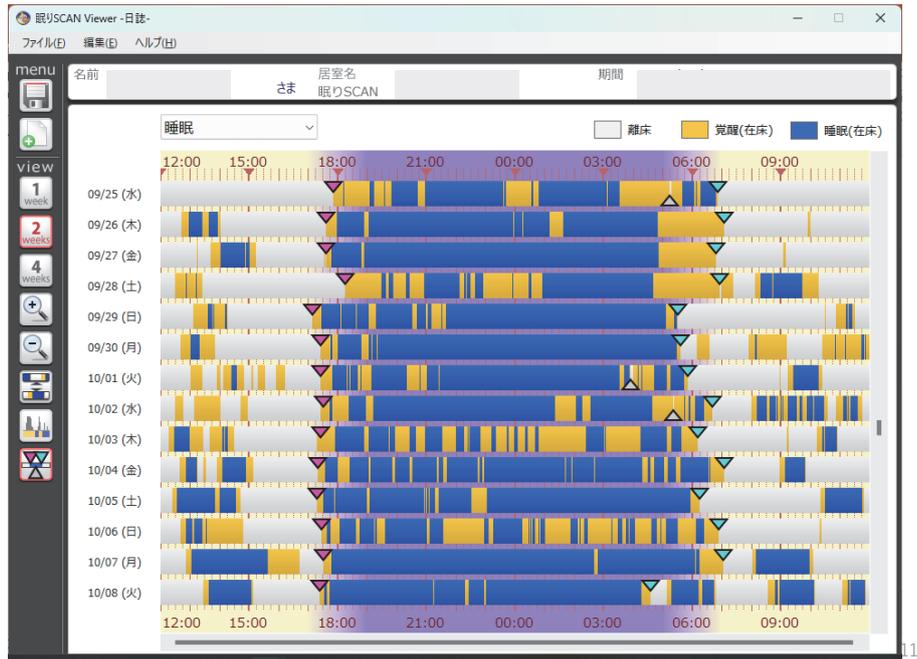
退院時



ADL：車いす使用
一部介助

睡眠リズムがバラバラ
ぐっすりと眠れずに
起き上がりがある日が
週の半分くらいある。

本人も夜間しっかり
眠れないことから
日中の眠気あり。



強いBPSDが発生しているご利用者活動分析



目標：夕食後より不安・心配・迷い・混乱などなく穏やかに過ごすことができる。

	課題 1)	課題 2)	課題 3)	課題 4)
生活全般の解決すべき課題	認知機能低下によりバルンバックの適切な取り扱いがわからず、不適切な取扱いにより膀胱炎・尿路感染症・バルン抜去のトラブル発生リスクが高い	認知機能低下及び下肢筋力低下によりブレーキを掛けられないまま移乗することや移乗時に臀部がアームサポートに引っかかることにより車いすが動き、着座時に転倒・骨折のリスクがある	不安・心配・迷い・混乱を改善しないことにより、より強いBPSDの誘発につながる恐れがあり、穏やかに過ごすことができない	現状のベッド位置ではベッドと居室入口を往復するには180度回転が必要であり、車椅子で移動するに十分な空間が不足している。そのため後進時、壁にぶつかることが多い。
改善活動案	①本人に適切な取扱い方法を習得してもらうことが困難なため、多動時間のみクリッピング実施し、尿の逆流を予防する ②バルンCTのルートは大腿部で一部固定し尿道口周囲及び膀胱挿入部にかかる力を減少し、バルン抜去を予防する ③何度もバルンバックを置く場所を移動させバルンバックを置く位置について足元側から型サイレール下に何度も置き換えていることより、どちらに置けばよいのか悩み・不安・混乱があることが考えられる。これは入れ物の設置、バック置き場の表記を行うことで置く場所を明確にし、不安・悩みを軽減する。 ④洗面台横の排泄用品より緑バットを1枚ナイロン袋に入れ、枕元に置いて行動より、排泄に不安があるのではないかと考えられる。そのため手の届くところに排泄用品を数枚設置する。また排泄がトラブルなく出来ていることを伝えることで排泄に対する不安を取り除く	①自動ブレーキ機能付き車椅子の導入によりブレーキのかけ忘れがないようにする。 ②アームサポートが低い車椅子の導入により、移乗時の臀部引っかかりを軽減する ③18時就寝介助時に右側のアームサポートを跳ね上げ、異常時の臀部引っかかりを軽減する ④眠りスキャンeyeを活用し、立位の部屋入室し、声掛け・見守りを実施 ⑤眠りスキャンeyeを確認し、ブレーキをかけた状態でベッドに移乗した後はその部屋入室し、ブレーキをかける ⑥下肢筋力向上訓練の実施	①眠りスキャンeye画像を確認しながら、本氏が横になるとするタイミングで眠前薬の服用を実施することにより、円滑な入眠+本氏の生活リズム・自己選択による自律支援をする ②夕食後、職員と共にリビング（洋の間含む）にて談笑し、過ごす ③不安時家族に電話し、家族より現状の説明を行っていただくことにより、不安や心配がないようにする ④日中の腿むちと夜間の腿むちの違いを持たせることにより、時間的感覚を感じるができるようになる ⑤居室ドアに就寝時間であることや、遠見見回りに来ることについて掲示し、リビングが暗くなることや人気なくなることに対して理解を促進する	居室内の家具・ベッド位置の再検討
実施する改善活動	A：バルンバック置き場を用意し、表記 B：バルンバック置き場横等に排泄用品を数枚用意 C：バルンCTのルートを大腿部で一部固定 D：往診でクリッピング可能時間を確認する E：落ち着きのない時間帯を把握 F：多動時のみバルンCTのクリッピング実施 G：就寝時排泄がトラブルなくできていることを伝える	A：18時就寝介助時に右側のアームサポートを跳ね上げ B：下肢筋力向上訓練の実施	A：眠りスキャンeye画像を確認しながら、本氏が横になるとするタイミングで眠前薬の服用を実施 B：居室ドアに就寝時間であることや、遠見見回りに来ることについて掲示	居室内の家具・ベッド位置の再検討
改善活動の優先順位付	①G ②C ③A+B ④E→D→F	①A ②B	①A ②B	
残された課題	落ち着きのない時間帯の把握		職員の観察スキル向上	環境整備後のモニタリング

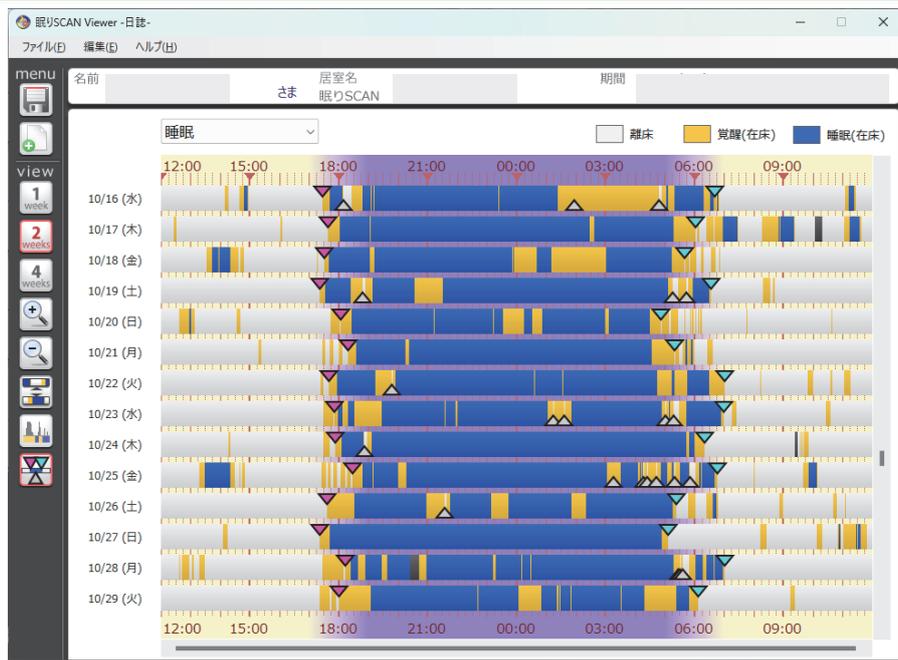
情報共有・支援方法統一時



職員間で情報共有・
日中のケア方法を統一

以前より夜間の睡眠
状況は良好に

ときどき朝方より
落ち着きない日
があるが、よく眠っ
ている



13

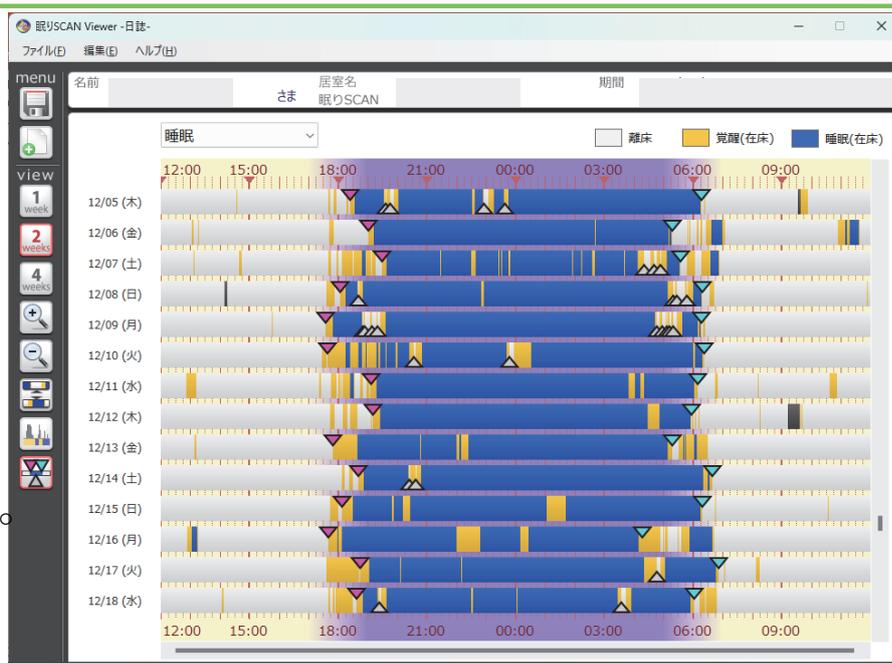
見守りカメラ導入後



入眠時は自身の納得いく
ことをしてから入眠する
ため少しまばらである。

夜間は以前よりも
しっかりと眠れている。

納得して眠るため、
安心して良い睡眠が
できているのではないかと

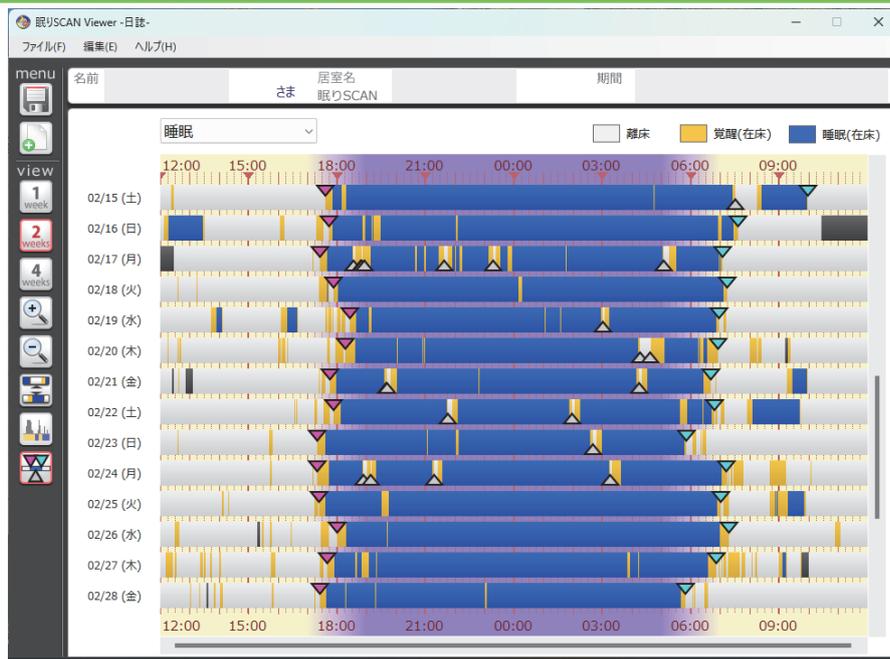


生活状況安定後のご様子

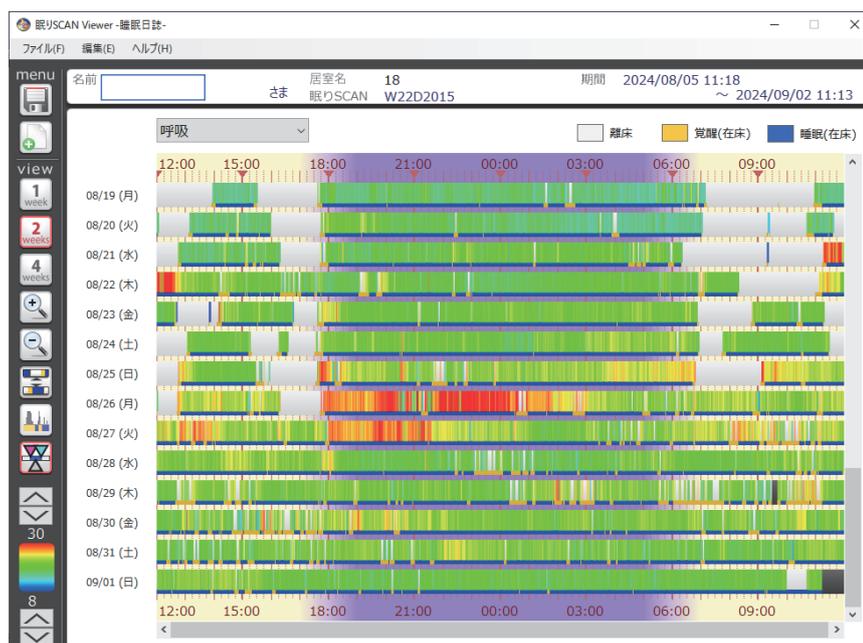


ときどき朝早くに起きられることがあるが、入眠も比較的良好
夜間しっかり眠れており、時々、トイレに行つて再入眠している。

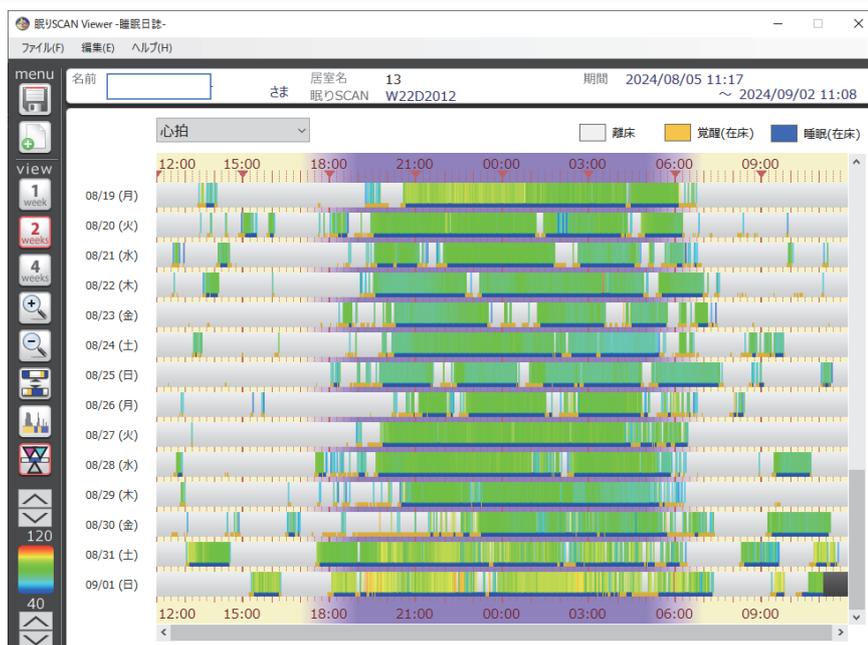
歩行器使用にて移動自立。



呼吸状態の異常検知による情報共有



心拍の異常検知による情報共有



17

見守りセンサー・カメラの導入による効果



利用者

- ・ 巡視による覚醒がない（少ない）
→ 熟眠できる → 日中の活動活発化・昼夜のメリハリ
- ・ 起き上がり検知後、即訪室による行動抑制がない
→ 自身の思いで活動することができる → モヤモヤの減少、納得して行動

職員

- ・ 巡視回数の減少 → 身体的負担の軽減
- ・ 居室内の状況が把握できる → 心理的負担の軽減
- ・ 睡眠状況の把握 → 日々のケアに活用

その他

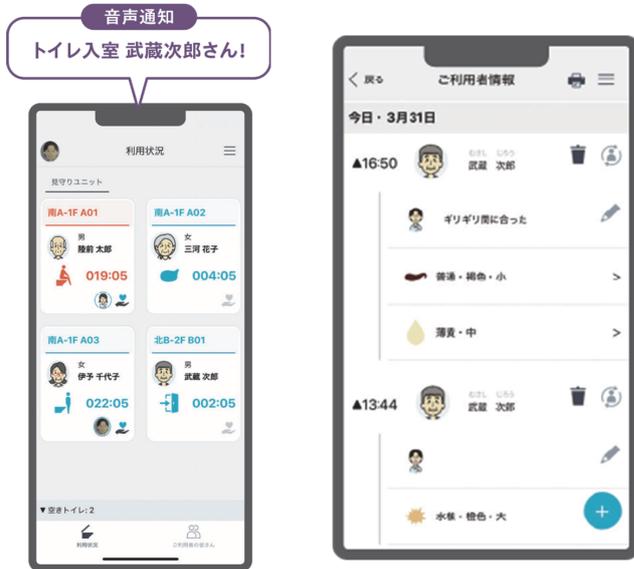
- ・ ご家族様・医療機関との連携時にデータを可視化し共有

18

トイレDIARY



排泄記録を自動作成



PARAMOUNT BED

19

トイレDIARY導入による効果



20

移乗支援機器導入による効果



2名介助が1名介助に

- ・ 職員の身体的負担軽減
 - 軽い気持ちで立位困難者をトイレ誘導
 - あの利用者さんもトイレ行けるんじゃないか…
 - トイレで排泄できた！
 - 介護のやりがいを実感
- ・ 利用者の安心・「申し訳ない」気持ちの軽減

Huq



21



クラウド勤怠管理システム



Huq



Helppad2

LINE WORKS

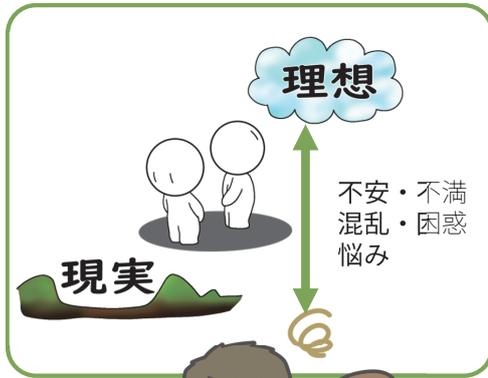
Smart Care Operating Platform



KINUAMI

22

機器選定・導入時の野の花ルール



適切なタイミングで、適切な機器導入
→積極的な取り組み

- ①利用者の生活状況の把握
→利用者の行動等に対する理解促進
→安心・安全・安楽な適切なケアの提供
→利用者のQOL向上
- ②職員の身体的・精神的負担の軽減
→モチベーションアップ
- ③職員の育成
→観察力向上、気づき増加
→考察力の向上
→倫理観の向上

介護の生産性向上

23

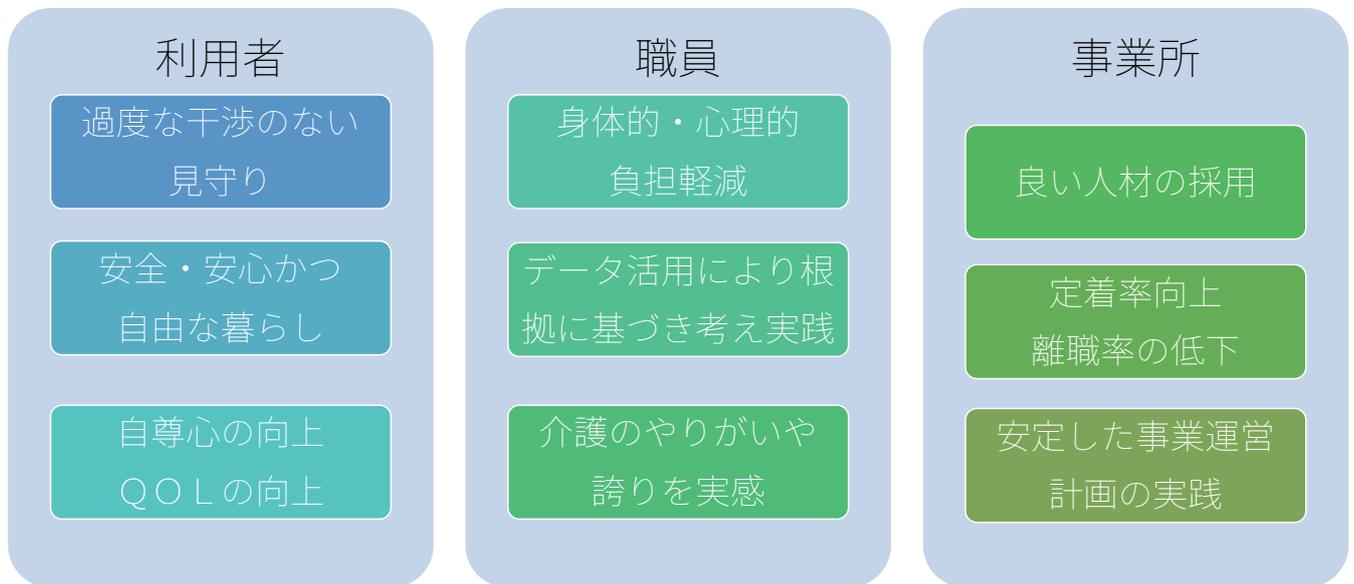
導入の条件



- ・利用者・職員双方にとってメリット
- ・利用者家族にも説明、時には巻き込む
- ・ちゃんと活用する
- ・導入は計画的に…
- ・導入目的・使用方法を説明・共有
- ・困った時の相談
- ・使用結果を効果検証・評価

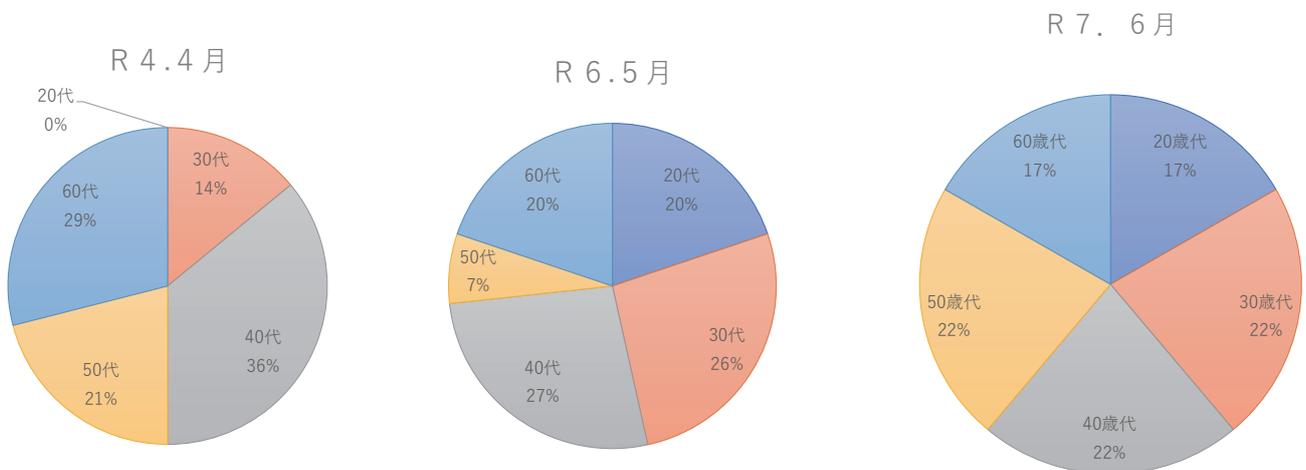
24

機器導入による効果



25

職員の年代構成



26

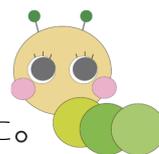
あたりまえの暮らしの継続



お互いに情報交換し、
共に楽しみながら
介護業界の課題解決に向け、
取り組んでいただけると嬉しいです！



ご清聴ありがとうございました。



エイト君®